

福井県立大学の学生が、こんな発表をしました！

若者が見た北潟湖—自然と文化を活かしたまちづくりにむけて—

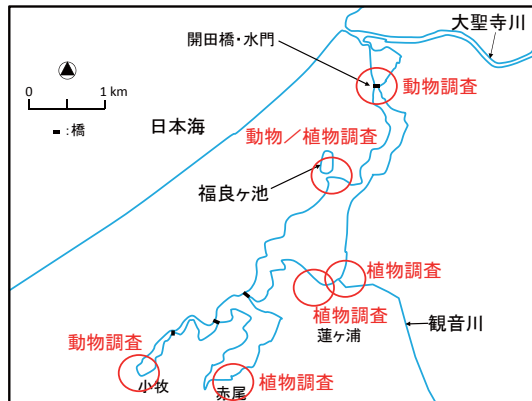
いきもの調査

背景

北潟湖の自然環境の保全のために、何ができる？



北潟湖のいきものを調査して、その糸口を探る！



動物班

●開田橋・水門付近

魚類（8種）：ギンブナ、ハゼの仲間、ボラ、シマイサキ、サヨリ、ショウサイフグ、イワシ、ソウギョ（？）
 その他（3種）：ベンケイガニの仲間、フナムシ、スジエビ



●小牧付近

魚類（2種）：コイ、タナゴの仲間
 その他（3種）：スジエビ、ニホンシガメ（準絶滅危惧）、シマヘビ

➡ 場所（環境）によって種類が違う

植物班（主に湿生・水生植物を調査）

- 蓮ヶ浦の水路：ドクゼリ（県域準絶滅危惧）など5種
- 赤尾の水田と水路：フラスコモの仲間（？）など22種（外来種3種含む）
- 観音川河口付近：ヨシ1種のみ
- ◎各調査地の“湖”での調査結果：ヨシ1種のみ



➡ 周辺の水田、水路、湿地では、多様な種を確認
 湖では、ヨシのみ確認

塩分濃度が高いことや護岸のコンクリート化が原因？

福良ヶ池周辺のいきもの

動物も植物も、多様な種が確認された！

●動物班

魚類（8種）
 ギンブナ、ハゼの仲間、キタノメダカ（絶滅危惧Ⅱ類、県域絶滅危惧Ⅱ類）ドジョウ、コイ、スズキ
 ※侵略的外来種：ブルーギル、オオクチバス
 その他（17種）



アメンボの仲間、イトトンボの仲間、クロスジギンヤンマ、シオカラトンボ、ヤブヤンマ、カゲロウの仲間、ゲンゴロウの仲間、タイコウチ、マツモムシ、ベンケイガニの仲間、スジエビ、ヌマエビ、ヤマトシジミ、カワニナ、タニシの仲間、トノサマガエル（準絶滅危惧）
 ※侵略的外来種：アメリカザリガニ



●植物班

シャクモ（絶滅危惧Ⅱ類、県域絶滅危惧Ⅰ類）、フラスコモの仲間（？）、ヒシ（県域要注目）、ホザキノフサモ（県域要注目）など47種（外来種3種含む）

文化調査

資源利用班



- ① ハツケウラ
- ② マナゴシ
- ③ ハロソソ(アカオシタ)
- ④ シノウメ(シノノセ)
- ⑤ 三ノウ
- ⑥ 丹次ダシ
- ⑦ ママデカイデン
- ⑧ エンマン
- ⑨ オオボト
- ⑩ ケヤキバ
- ⑪ タラモシガイデン
- ⑫ コホンマツ
- ⑬ ナカノコ
- ⑭ セイキチカイデン
- ⑮ ナカノシ
- ⑯ ナカノシ
- ⑰ ナカノシ
- ⑱ ナカノシ
- ⑲ ナカノシ
- ⑳ ナカノシ
- ㉑ ナカノシ
- ㉒ ナカノシ
- ㉓ ナカノシ
- ㉔ ナカノシ
- ㉕ ナカノシ



北潟湖の季節に応じた漁撈活動

漁法	魚種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
船引網	アサギ・コイ												
袋網	コイ・フナ・ササギ・ササギ												
延縄	ササギ・ササギ												
刺網	ササギ・ササギ												
籠	フナ												
エビゼ	エビ												
タネスネ	フナ												
ヤスガシ	フナ												
船手網	ササギ・ササギ												
竹筒	フナ												
磯網	フナ												
船引網	コウナゴ												

※本編発行2000「生態空間と民俗の展開」『民俗文化』12の表2を改変

「資源利用班」と「食文化班」に分かれて北潟湖の文化調査を実施した。

漁撈による資源利用では、湖の**詳細な空間認識**と、**ローテーション型の禁漁区制度**が明らかになった。また、季節に応じた漁撈活動も明らかになった。季節に応じた資源利用は、食にいろどりをそえている。北潟湖周辺地域には、**自然条件に応じた食文化**があることも分かった。

二班の調査結果から、四季に応じた資源利用とそれにとまなう食文化という、**自然の恵みを十全に活かした北潟湖の生活文化**の一端を解明することができた。

冬

寒ブリ地曳網、柴漬、刺網、袋網、四手網
 寒ブリ、アワビ、サザエ、セイコガニ、ワサビ

春

コウナゴ地曳網、ウナギ延縄、ウナギ竹筒、エビ袋網
 シラウオ、コウナゴ、ワカメ、メカブ、山菜、松露

秋

ウナギ延縄、ウナギ竹筒、柴漬、刺網、袋網、四手網
 ワカサギ、モクスガニ、タコ、富津金時、大根、キノコ、米

夏

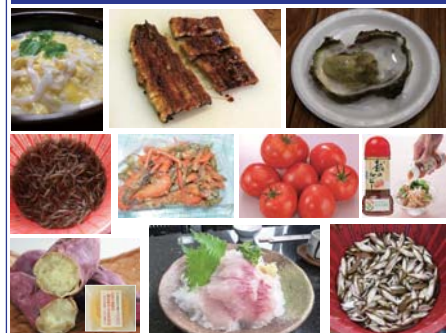
ウナギ延縄、ウナギ竹筒、エビ袋網（地獄網）
 ウナギ、ゴリ、テナガエビ、岩ガキ、スズキ、タコ、スイカ、メロン、越のルビー

食文化班

【事例】寒ブリ

- ・お祝い（結婚式）の形態が変わり、家庭からホテルが主流となるとともに、振る舞われる料理も寒ブリのこちそうからフレンチなどへと変わって代わられた。
- ・世の中の変化で海の魚も年中外部から手に入れられ、川魚の需要が減った。
- ・需要の減少により供給（漁獲量）も減少した。
- ・淡水魚である寒ブリは**生きたままさばく**が必要であり技術が必要である。その技術の継承が薄れている。
- ・淡水魚独特のにおいによる好き嫌いがある。

北潟湖の食文化の一例



	春	夏	秋	冬
湖	シラウオ コウナゴ	ゴリ 手長エビ ウナギ	ワカサギ モクスガニ	寒ブリ
海	ワカメ メカブ	岩ガキ スズキ タコ	タコ	アワビ サザエ セイコガニ
山・畑	山菜 松露	スイカ メロン 越のルビー	とみつ金時 大根 きのこ・米	ワサビ